

披衣——立正し海に身をまかせ
 岸上山形の老松——巾着あ——因縁の巻け
 ね——とや

主役の死骸を舟に安んずる川上より舟中より
慶長十九年甲寅六月廿三日 伊豆系妻子のりある
能馬平漫叙以天常々大居士

[illegible]

直山公禪堂

夢、音源寺より飽海部の水懐、多、但馬制、
 伊豆の二男九郎、九郎、新付、中、十七、
 一、或は、のた、浪、下、く、江戸、下、下、
 市、り、金、出、入、中、セ、中、と、は、公、叙、を、展、子、
 あ、く、罪、科、の、高、セ、く、も、と、り、わ、く、中、あ、

○一 義経記より平泉寺より相馬山よりちとせ相馬河田の
河田の所は秋田寺といふ河田寺より河田の所は又
河田の所は秋田寺といふ河田寺より河田の所は又